

No.185

公民館だより

令和7年11月

宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

由良散歩 「丹後由良の良さ発見」

由良地区公民館長 千坂 幸雄

9月下旬、役員会の案内配付を兼ねて由良を散歩しました。

今年の夏は、今まで経験したことがない暑さでした。梅雨が6月上旬から始まり「今年の梅雨はあったのかな」と思います」いつの間にか真夏になりました。秋分の日を迎えるまで最高気温が35度を超える異常さに体もなれない状態でした。毎日、午前中にすべきことを済ませ、昼からは冷房の効いた家の中でゆっくり過ごす毎日で、配り物は車に乗ってしました。9月下旬になり久しぶりに歩いて配ることができたので、つい由良地区をゆっくり見ることができました。

そこで、気づいたことを書いてみます。

由良地区は美しいとは今までも感じていましたが、今回の散歩で本当に美しいと感じました。

一軒一軒のご家庭の庭には花が咲き乱れ、除草がしっかりと行なわれていました。生け垣なども剪定されています。夏はどこの家庭でも除草作業が大変で地区の財産である神社・墓地の清掃もありました。

この美しさは、そこに住んでいる人々の心の豊かさから出てくるもので、地区民のまとまりの良さも感じられます。浜に出てみますときれいな松林と砂浜が目に入ります。

「どこでもドア」もあらためて見ますと面白いです。そしてハマボウフウが生息していました。ハマボウフウはセリ科の植物で、てんぷらにするとおいしいです。



ハマボウフウ

他府県の業者がドローンを使って測量をしていました。

もう一つ気づいたことは、柿やみかんがたわわになっています。昨年は柿が採れなかったのですが、今年は豊作のようです。ミカンの生育もよいようです。

今回は、宮本と脇の集落内

と脇から浜野路までの浜を散歩しました。

今度は、浜野路・港・下石浦・上石浦を散歩しようと思います。

中秋の名月、10月6日、夜7時15分自宅から祭り太鼓の練習会場である浜野路公民館まで歩いたのですが、ちょうど満月が通り道の上にあり、ウサギが餅つきをしている様子を風情豊かに感じながら5分間でしたが鑑賞することができました。名月を由良の軒並みを歩きながら鑑賞できるのも由良の良さだと思います。

今（10月10日）、原稿を書いていますとギンモクセイの甘い香りが漂ってきました。もうすぐキンモクセイの花が咲きだします。

文化の秋、スポーツの秋、食の秋、読書の秋、短い秋になるかもしれませんが、何をするにも良い秋を思う存分楽しみたいと思います。そして、由良の良さを発見していければ幸いです。

事業報告

由良地区公民館主事
千坂 昌子

ニュースポーツ

実施日 7月6日(日)

9時～11時

参加者

16名
(内子ども2名)

内容

・モルック

今年はモルックだけに絞って実施しました。

4チームでトーナメント戦をしました。

余った時間30分を使って対戦していないチームで試合をするくらいとても楽しい時間を過ごせました。



はまの子グラウンドの大きな楠の木陰で風に吹かれて涼しく体を動かせます。
とても簡単なゲームです。
では是非、多くの方のご参加をお待ちします。

ふるさと祭盆踊り

実施日 7月26日(土)

18時30分～20時45分

参加者 約300名

由良中央海水浴場に会場変更して3回目を迎えました。

16時30分から公民館活動員は打ち合わせと機材搬入、提



灯や紅白幕の取り付けにかかります。

まだ日中の暑さが残る中ではありましたが、てきぱきと作業が進んで行きました。

提灯をぶら下げるロープにつきましては有志の方にご協力をいただいておりますので大変助かりました。ありがとうございました。

18時30分開始の盆踊りの準備を終えてお客様を迎えます。

最初は約40名の方々が「踊り保存会」の方を手本に踊りました。

演目

・由良小唄

・えいへいや

・宮津節

休憩後もう一度踊りました。提灯の明かりはふるさと祭終了時までつけて雰囲気作りに活用しました。

後片付けは自治連と公民館とで協力して行い、手際良く済ませることが出来ました。

今後の課題

・由良の踊りを受け継ぐ若い担い手を育てること。ふるさと祭までに1回体育館で練習を行いました。小学生・中学生・高校生に踊っていただけるようになればと思います。

はまの子グラウンド 除草作業

実施日 9月7日(日)

17時～18時

主催者 由良地区公民館

共催 由良自治連合会

参加者 体育館利用の各団体

各地区の有志

総計 70名

グラウンド(フェンスの外側も)や体育館周辺、遊具の周りを大変綺麗にしてくださいました。

気持ちよく使わせていただきます。



学ぶ楽しさを感じ、学びを深めていく

栗田小学校 谷川 貴昭

本校では、子どもたち一人一人が意欲をもって学び、仲間とともに考えを深めていくことができるように、日々の授業改善に努めています。授業では、子どもが自分の考えを安心して発表できる雰囲気づくりを大切にしています。学習の始めには、学びの「めあて」を自分たちで考え、どのように学んでいくかを話し合いながら計画を立てます。学習の途中では、友だちの考えを聞いたり、自分の考えを比べたりしながら、理解を深めていきます。また、学習の終わりには「振り返り」の時間を設け、学びを次につなげる力を育てています。こうした学びの流れを繰り返すこ



☆授業の様子
友だちとの関わりから自分の学びを深めています

とで、子どもたちは自分の成長を実感し、主体的に学び続ける力を身に付けていきます。『自分で学びを計画し、仲間と

ともに挑戦し、また振り返って次の目標を見い出す』その積み重ねが、確かな学力と豊かな心を育てています。子どもたちが学ぶ楽しさを感じ、自ら進んで学びを深めていく姿がたくさん見られるようになってきました。子どもたちが自分の学びを自分のものとして積み重ねていけるように、「自分で計画して学ぶ」ことを大切にしています。

教育活動における コミュニケーションと発信力

コミュニケーションは教育活動の基盤です。教師と子どもとの関係においては、相手を尊重し、互いを理解し合う姿勢が信頼関係の構築につな

がっています。教師が子どもの思いや考えを丁寧を受け止めることで、子どもは「自分の意見を表してもよい」という安心感をもち、学びに積極的に関わるようになる。また、子ども同士の関係においても、対話的な学びを通して互いの違いを認め合う経験が、思考の多様性を広げ、より深い学びを生み出します。

次に、発信力の育成です。発信力とは、単に自分の意見を述べる力ではなく、「目的や相手を意識して伝える力」です。授業の中での意見発表、グループ討議での話し合い、学級活動での意見交換など、あらゆる場面で発信力を育てる場となります。教師は、子どもが自分の考えを整理し、根拠をもって伝えられるように支援するとともに、聞き手の反応を踏まえて表現を工夫



☆大阪関西万博参加
様々な工夫を凝らした表現を体験



☆栗小フェスティバルの
コーナー紹介

する力を育てていく必要があります。さらに、ICT機器の活用によって、発表スライドや動画、デジタル掲示板など、多様な方法で自分の学びを発信することが可能になります。子どもたちの表現の幅を広げています。発信を通して学校の教育活動を理解してもらうことは、信頼関係の構築にもつながっていきます。このように、教育活動におけるコミュニケーションと発信力の育成は、子どもたちの「学びの質」を高めるだけでなく、「人となつがり、共に生きる力」を育てるものです。互いの考えを尊重し、理解し合いながら、自らの考えを主体的に発信できる子どもたちを育てることこそ、これからの教育の大きな使命です。

令和7年度幼稚園・
小学校・中学校合同
運動会に参加して

9月27日(土) 栗田小学校グラウンドに於いて幼・小・中合同運動会が開催されました。

昨年から合同で開催されています。

「合同運動会を行おう」という意見は学校運営協議会の話し合いがもとになり実現しました。

合同運動会の良さを紹介します。

準備片づけが多くの教職員と保護者、中学生等でできます。

幼稚園児、小学生、中学生を合わせると100名ほどになりますし、その分、保護者等関係者も多く参加します。賑やかな運動会になりました。

中学生が種目参加していないときには補助員を務めたり、

応援をしたりすることが出来ます。小学生も幼稚園児を応援します。

幼稚園児は小学生と中学生、小学生は幼稚園児と中学生、中学生は幼稚園児と小学生の活躍を見ることができ、多くのことを学ぶことができます。

大人たちは、幼稚園児、小学生、中学生の発達の違いを感じ取ることが出来ます。

昼から1番に小学生と中学生の集団演技がありました。創意工夫された演技が、どの子どもも恥ずかしがる様子がなく音楽のリズムにのって生き生きと演じられました。テレビで見るダンサー顔負けです。

このような演技ができるのは、普段の授業の中で、表現力やコミュニケーション力、信頼関係を培っている成果であると確信しました。

由良の戦後八十年

飯澤 登志朗

今年は戦後80年として報道やイベントが各地で実施された。

由良地区の戦中、戦後とは考えると色々と浮かんてくる。私が小学校に入学した年に戦争が始まり学校名も尋常小学校から国民学校に変更になり、教育内容も一変、軍事一色となり友達の父親が招集されたり村内の様子も変わり子どもなりに緊張感を持った生活となってきた。

勤労奉仕は当たり前、授業は2時間程度で農作業の手伝いや桑の木の皮むき等、外での活動が中心である。教師の若い男性は軍隊に召集され、ほとんどが女性教師であった。

上級生になると、由良川でカッター訓練があり、竹やり訓練もほぼ毎日、今から考えると本当に馬鹿げた小学生時代であった。

各家庭に防空壕が掘られ警報が出ると逃げ込んだこともあったし、米軍機が由良ヶ嶽上空から宮津湾、栗田湾へ急降下爆撃するのを茫然と見ていた記憶もある。

そして終戦、夏休み期間中に臨時登校があり、通学中に先輩から敗戦を聞きながら学校へ向かうとき、我々の話を立ち聞きた近所のおばあさんが「日本は神国や、負けたりしない」と大声で叱られたことも覚えている。

次に教育法が設定され、現

在の六三三制と変更、由良中学校がスタート、小学校の空教室を間借りしての開校である。

校舎建築が始まり男子生徒は作業に借り出され、作業足場に並んで屋根瓦を運んだこともある。

問題はやはり食料難である。校庭の半分ほどがさつま芋畑になる。今のようにおいしい芋ではなく大きくなる芋作りであった。

由良地区には、「男は船乗、女は塩仕」という方言があるように塩作りも復活し地引網も盛んであった。生活のため何でもやる時期である。

由良地区の80年、最大の出来事は市町村合併である。

昭和29年、宮津町と近隣村が合併し宮津市がスタートとなったが、由良地区では舞鶴か宮津かと激しく意見が分かれていた。説明会は小

学校体育館で開催されたが住民が館内一杯になるほど集まり長時間議論された結果、昭和31年宮津市へ合併となった。決定後も宮津派舞鶴派と別れて親戚同士でも交際が途切れた時期がある。

報道で知るように世界各地で戦争が起こり人命が失われているが、国内でも戦争を体験した人は高齢化し戦争の悲惨さをどのように後世に伝えていくのか問題が残されている。

少子高齢化は由良地区でも急速に進んでおり解決方法は見当たらない、後継者難で農地の荒廃を目の前に、また空き家増など厳しい現状をどうするのか？

日本全体の問題ではあるが現在では個々の責任で解決しなければならぬのか。

戦後80年を迎え、そんなことを思う日々である。

退董式・晋山式

令和7年10月5日

護国山松原寺の退董式及び晋山式が厳かに執り行われました。

【退董式】午前9時30分

退董式とは、住職が隠居され、方丈（住職の居室）を去ることです。

この退董式は、聖弘老師引退の儀式です。当山第十七世、岡野聖弘老師は、当寺に晋山以来約30年の永きにわたって、この伝統ある松原寺の法灯を護持され、檀信徒の教化に尽力されました。

○お経「摩訶般若波羅蜜多心經」

聖弘老師が、松原寺のご本尊様、御開山様、歴代のご住職様方にお別れのご挨拶をしまわられました。

○謝辞

檀信徒を代表して松原寺総代の上田泰司様から聖弘老師へ謝

辞を述べられました。続いて、聖弘老師からご参集の御寺院様、檀信徒の皆様へ謝辞が述べられました。

○大開静

山内の鐘や太鼓を鳴らして聖弘老師をお見送りいたしました。聖弘老師は、大テント2つに満席の檀信徒の皆様の前をゆっくりとした歩調で檀信徒の皆様と世話になったお礼等を交わしたりしながら感慨深く山門を退出いたしました。永きにわたり大変お世話になり、ありがとうございました。

【晋山式】午前10時

晋山式は新しく住職就任辞令の交付された和尚（新命和尚）をそのお寺にお迎えする古式ゆかしい祝典です。

○安下所

新住職が旅装を解いて休憩し、式典にのぞむ身支度をするところ。松原寺ではこのたび、松林威佐雄家がこれに当たりました。

○新命入駕

新住職は行列を組んで安下所を出発します。当寺ではお稚児さんが参加します。約36名のお子さまが参加しました。

○新命晋山

新住職が山門に到着いたします。主だったご寺院がお出迎えしました。

○山門法語

新住職が山門に立った感慨を法語でお唱えしました。

○大播上殿

太鼓のとどろく中、本堂へ入堂いたしました。

○辞令宣読

管長 狛下げいかよりの住職辞令が読み上げられました。

○仏殿・土地堂・祖堂法語

当寺のご本尊様、伽藍を守る神様、禅宗の開祖様、に法語を捧げました。

○開山堂法語

当山の御開山、歴代のご住職様方にご挨拶の法語をささげました。

○祝辞 ○祝電披露 ○祝拝

◎檀信徒総回向 10時40分

今日の喜びの式典は、松原寺を護持されてこられた皆様の、そして皆様のご先祖様のおかげです。この多くのおかげさまに感謝し、新住職が大勢のご寺院様と共に、ご先祖様への心からなる供養の法要をおつとめされました。

◎新命住職

淡井 智昭あわい ちしょう

平成8年7月13日生まれ
常徳寺（舞鶴市宇今田）に生まれる。

（小学校から高等学校まで省略）

駒澤大学仏教学部禅学科卒業

※大学在学中は仏教研修館竹友寮に在籍

平成31年3月から令和4年5月まで大本山永平寺僧堂に於いて修行

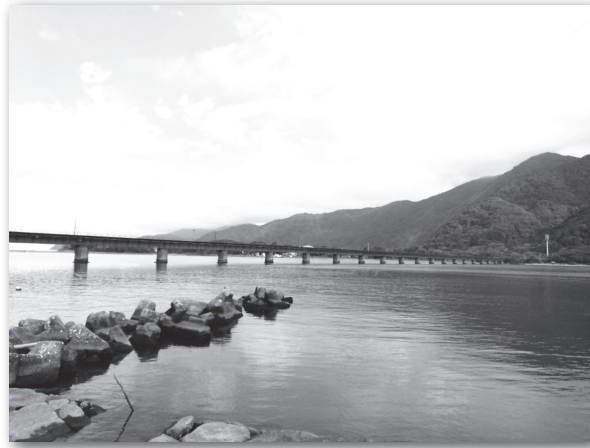
令和4年6月松原寺住職 岡野

聖弘師の室に入り伝法

（新住職には、健康に留意され、幾久しく松原寺の住職として、おつとめしていただくことを祈念いたします。）（千坂 記）

由良川橋梁 これからの百年に向けて

由良の歴史をさぐる会 木村大祐



大河由良川にかかる由良川橋梁。日本海を背にした雄大な光景を写真に収めようと、少なくない観光客がカメラやスマホを片手に由良を訪れている。また、多くのメディアにも取り上げられており、今や京都府北部の名スポットといえよう。

さて、この由良川橋梁、昨年に築百周年を迎えた。全長五百五十一メートルで二十四連のプレートガーダー（鉄鋼の桁）が連なり、それを二十三基の鉄筋コンクリートの橋脚が支える。その時代の工法としては一般的なものであるが、コンクリート橋脚を有する桁橋としては、当時最大径間を誇ったという。また、上部に向かうにつれ絞られていく筒形の橋脚は、表面を石積み風に目地を施しており、周囲の風景に違和感なく溶け込んでいる。



橋脚のずれ(KYOTO SIDEより)

たり、橋脚基礎のコンクリート井筒が大雨により夜中に横倒しになったりしたという。ある時は、コンクリート井筒が大水で傾き、これを「沈下する際に真っ直ぐにすると同時に規定の位置に直せ」と鉄道省より命令があったが、結局六十センチメートルほど他よりずれてしまったという。橋脚は全部で二十三基あるが、丹後神崎側から六基目の橋脚が、それである。基礎部分と比べ、橋脚上部が神崎寄りの川下側へ約六十センチメートルずれている。川上側から見ると、そのずれがはっきりと視認できる。

ここで簡単に由良川橋梁の沿革を述べれば、大正十年十月より着工した国鉄峰山線の第一工区内として、舞鶴（現西舞鶴）宮津間に建設されることになったが、もともと由良川河口域に架橋する計画はなかった。当初は、舞鶴の真壁峠にトンネルを通して志高あたりに架橋し、由良川西岸を北上して、丹後由良經由で宮津へ鉄道を通す予定であった。



架橋工事計画図(大江町誌通史下巻より)

しかし、この計画を知った大江地方までの上流の村々が、水害を恐れて猛反対をしたため、計画は由良川東岸を北上

する案に変更された。

ここで疑問が残る。なぜ、架橋地点が川幅の最も広い丹後由良神崎間に変更になったのか。架橋工事としては、もともと費用が掛かったと思われる地点に、である。もう少し下流（例えば石浦―和江間）で架橋しなかった理由は、何なのであろうか。判然としない。当時を知る由良の長老たちによると、「石浦の住民が黒煙による煙害を懸念して反対した」、「和江の住民が煙害による反対をした」など、反対があったという。しかし、それらの理由により、石浦から和江の間に鉄道が通されることがなかった、という官側の記録は見つけられなかった。

今となつては、蒸気機関車の黒煙は当時の人々にとつても看過できない環境問題であり、加えて河口域以外で架橋する案も、洪水の懸念から強

い反対があり断念せざるを得なかったのではないか、と述べるのが限界である。

いずれにせよ、結果的に百年前の人々の選択が、現代の私たちに感性を揺さぶる素晴らしい景観を遺してくれることになったのは、何とも幸いである。

悠久の流れを湛える由良川と季節ごとに彩りを変える山々、そして背景に広がる穏やかな日本海との共演。自然と人工物とが融合して織りなす光景は、未来に残すべきランドスケープの一つではないだろうか。

百年先も、その雄壮な姿で人々を魅了してくれることを願うばかりである。

※本稿は、昨年、由良文化祭の展示によせた拙稿に加筆修正したものである。

【由良川橋梁概要】

一 沿革

- ・一九二三年（大十二年十月）竣工
- ・一九二四年（大正十三年十二月）開通
- ・二〇一五年（平成二十七年）選奨土木遺産指定
- ・二〇二四年（令和六年）開通百周年

二 諸元

(一)所在地

京都府舞鶴市および宮津市
現京都丹後鉄道宮舞線
丹後神崎―丹後由良間

(二)型式

上路プレートガーダー橋
（上部に路のある鉄鋼や形鋼を組み合わせて板《プレート》状にし、その断面がI形状の桁《ガーダー》からなる橋）

(三)規模

橋長 五五一メートル
径間数 二十四×支間
約二十二メートル
桁下―水面
五―六メートル

架橋地点の水深

約一メートル半―

約六メートル

橋脚の直径 約三メートル

橋脚の表面

目違いの目地を施した石積み風コンクリート

(四)構造

二十三本の橋脚（鉄筋コンクリート）が列する二十四連のプレートガーダー橋

(五)材料（橋歴版より）

八幡製鉄所製

(六)製作（橋歴版より）

株式会社横河橋梁製作所



橋歴版

(七)設計者

鉄道省

(ハ) 請負人

ア 後藤伝五郎 明治四年

(一八七一年) 三月生

京都府多額納税者

京都工務所

土木建築請負業

イ 請負区間 国鉄宮津線

(建設当時峰山線)

西舞鶴―峰山間

第一工区

(現西舞鶴―丹後由良間)

ウ 請負金額

七八八千円

(現在の十八―二十二億

円に相当か)

《参考文献・資料》

・日本鉄道建設業協会「日本

鉄道請負業史 大正昭和(前

期) 篇」日本鉄道建設業

協会 一九七八年

・中西林兵衛・中西俊夫編

「鉄道工事当時の覚え書き」

『由良の歴史 第二号』由良

の歴史をさぐる会

一九八一年

・宮津市史編纂委員会「宮津

市史通史編下巻」宮津市役所

二〇〇四年

・大江町誌編纂委員会「大江

町誌通史編下巻近代編

大江町 一九八四年

・京都府教育長指導部文化財

保護課編「京都府の近代化

遺産・京都府近代化遺産(建

造物等)総合調査報告書」

京都府教育委員会

二〇〇〇年

・林倫子「由良川橋りょうフォ

トジェニツクな二十四連の

プレートガーダー橋」『土

木学会誌』一〇三号 三卷

二〇一八年

・坂下泰幸「関西の公共事業

土木遺産探訪 第四集」

北斗書房 二〇二二年

・人事興信所編「人事興信録

第八版」人事興信所

一九二八年 九十六頁

(国立国会図書館デジタル

コレクション) 二〇二四年

・京都府広報課「『由良川橋梁』

大解剖く青い空、青い川の

上に溶け込むように走る

列車」KYOTO SIDE

二〇二四年



(<https://www.kyotoside.jp/entry/yuragawa-bridge>)



連絡線の跡



かつては歩いて渡れた歩道



建設時の写真(西野虎男氏寄贈)

由良が光り輝いていた時代 ②7

丹後由良歴史調査「^{ひとり}独」会 加藤 正 一

観音さん

脇地区 七右衛門の観音さん

忠右衛門の観音さん

上石浦地区

石田観音さん

が現在知られている。

江戸時代から存在していると思われるが、西国三十三カ所観音霊場第二十八番成相寺（宮津市）。第二十九番札所松尾寺（舞鶴市）。の観音道と言われる道中に由良があり、これらの観音さんがあるにも関わらず、舞鶴郷土資料館学芸員 小室智子氏著の「西国三十三所巡礼記読み比べ」四十六編の中で一番古い一編の一部を借用すると、「西国三十三所道しるべ」元禄三年（一六九〇）

「栗田へ一里 此村、泊有り。是よりあふば（大波）村ま

で海上五里舟（舟悪しく）にのる。此舟より見れば向の左に海の中に島一つ見ゆる。爰に宮居有り云う。右は由良の湊也。此先の山岸に波高くうねり来て岩に当り、波二・三間ほど真つ白に立ちのぼり、其浪の帰りたる跡の岩をみれば、昆布あらめのたぐい取り着きて有り。又陸地を行けばくん田より由良の湊まで二里半、此間に七曲かり八峠とて五十丁の内小坂あり。〈津塩丸此所柴勧進とて有り〉ゆらに渡し舟有。〈水盃の所有り〉運賃六匁、此由良は湊也。此所につしわ丸の塚、山升太夫屋敷、又は國分寺の寺跡あり。又、山升太夫首ひく所とて松もあり。此ゆらより一里行きて中山と云う所なり。是より二里行きて田邊、此所の御城主牧野因幡守殿三万五千石、此所より三里半行きて松の尾也。陸

地行てよし」。後略
この文に書かれている由良の事項は

- ・七曲八峠
- ・湊

- ・津塩丸此所柴勧進

- ・渡し舟

- ・つしわ丸の塚

- ・山升太夫屋敷

であり、山升太夫の事などは書かれているが、西国三十三所の道しるべで四十六編あるにも関わらず、由良の観音さんはどれにも登場しない。

この道しるべが書かれた時代には、由良の観音さんは無かったかと云えば、石柱の読みが正しければ宝暦十四年（一七六四）には創建されていたと思われる。

宮津方面から七曲八峠の入り口にあたる栗田脇村の休耕寺、鎌倉時代の創建と云われ、平安時代の観音菩薩立像がご本尊としてあるにもかかわらず、やはり記載がない。これらの巡礼記の作者達は信仰が主たる目的でなく、札所参拝が目的であ

ったと思われる。念のため、観音菩薩を祀る三十三カ所の霊場を巡る巡礼とは、

巡礼を通じて、信仰を深め、悟りを目指す。「三十三」という数字は観音菩薩が衆生を救うために三十三の姿に変化するという信仰に由来しています。又三十三所の観音菩薩を巡礼参拝すると現世で犯したあらゆる罪業が消滅し、極楽往生できるとされる。とネットには書かれている。三十三カ所の札所がご詠歌である。

それぞれのご本尊は

第二十八番成相寺・聖観音菩薩
第二十九番松尾寺・三十三カ所

の中で唯一馬頭観音菩薩
願います！

盗らないで下さい！

由良にある神社仏閣の石仏、駒犬など歴史遺産は先祖達が現在まで守り大切にしてきたもので、その場所にあつてこそ価値あるものです。

住民の皆さんも、興味の有無、信仰の有無に関わらず、注意して見守っていただきたい。

脇の忠右衛門（米田）西側

観音さん・十一面観音菩薩と先
見人は書いているが、ご本尊は像
を見ると、如意輪観音のように
思われる？

この観音さんは現在、お堂など
無く更地に石柱のみ。

石柱



南無観世音菩薩？

別の場所に安置されている。

中央上段の厨子の中にご本尊



ご本尊 「如意輪観音」



台座に文字 未読



七右衛門の観音さん 東側

観音さん・千手観音と先賢人は
述べられているが、ご本尊では
なく、後に奉納された仏像であ
る。

ご本尊は聖観音菩薩座像
民家と接続しているお堂



石柱 南無観世音菩薩？

側面に宝暦十四年？（一七六四）



右の厨子の中にご本尊

聖観音菩薩座像（江戸中期頃）



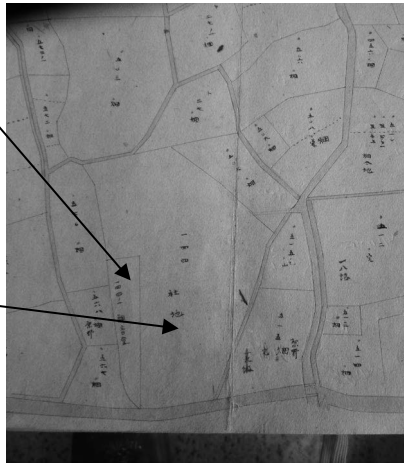
千手観音（北前船船主 米屋四
郎右衛門 母寄進）詳細公民館
だより「由良が光り輝いていた
時代」No.19参照



七右衛門の観音さん 東側は現在矢野さんが維持管理され、七月に年一回ご開堂される。

丹後国加佐郡寺社町在旧記 享保十六年(一七三二)に「観音堂あり出現の砌は、方便奇特にして隣国近辺の参詣絶え間なし、近年流行たまわず、問う人なくして御堂大破に及べり」とある。二つの観音堂は隣り合わせに建立されていた。丹後国加佐郡寺社町在旧記内容は忠右衛門の観音さんのことか、お堂大破の頃は七右衛門の観音さんは存在しなかった？矢野さんから昔出店が出るくらい賑わったと伝わっていると伺った。

上石浦 石田観音



観音堂
社地(中路神社)

明治四十四年四月作成の台帳、台帳と現在の観音堂の位置が変わっている？
石田観音堂



看板の下に句



くせのとや つみわ
ながれの 大くもがわ
ちかいは ここに
石田かんのん

大くもがわ 〓 由良川



逗子の内部 三十三所の小観音



例 十六清水寺

どの観音さんも創建年月日は不明である。

しかも、お堂や仏像が存在するにもかかわらず、明治十七年加佐郡寺院明細帳には記載が無い。如意寺や松原寺・下石浦にあった快宝院(現在は存在しない。詳細は今後別稿で)などは記載がある。

・丹後国寺社帳 天和二戊年(一六八二)には如意寺や松原寺のみである。

・丹後舊語集 享保十年(一七三二)

・観音堂 堂守 忠兵衛とあり
堂守忠兵衛は脇 忠右衛門の観音さんか？

もしそうであるなら、丹後国加佐郡寺社町在旧記年代や丹後舊語集年代より、脇にある忠右衛門の観音さんはこの時代に建立されていたと思われる。

『由良ってこんなものできるんだ』Ⅻ

山下 剛 敏

日中は三十度超え、朝晩は二十度、九月に入っても体調管理の難しい気温の変化に見舞われました。

九月の中旬下旬は急な雨が降り、七月八月の「水不足」に加え、刈り遅れを誘う天候に悩まされた米作りの年でした。ゴールデンウィークから五月上旬に田植えをされた方々は、収穫量が例年並みに獲れたようです。しかし、中旬以降で植えた方々が水不足に直撃し、雑草が増えてしまい、収穫量が激減する田もありました。

毎年、由良ヶ岳から豊富な山水が美味しい米を作るべく流れてきます。それが今年の

最高気温三十五度前後を連発したことで、枯渇気味になりました。こんな事が起こりえるのだと、マニユアルでは学べない管理の難しさと、水の大切さを痛感させられる農繁期となりました。

今回は南瓜こと「かぼちゃ」です。

今までご紹介した作物と大きく違う点があります。作物を作るにあたって、「人口受粉をする」とできる確率が上がる」という点です。この方法を用いるのは他にも、イチゴ・スイカ・ズッキーニなどがあります。

①種または苗以外に揃えるもの
有機石灰（有機だと植付けがすぐにできます。）、堆肥（牛ふん・鶏ふんなど）、野菜用の化成肥料、用意できれば有機肥料（油かす・魚粉入り肥料など）手に入れば稲藁（ワラ）を利用し、雨による泥の跳ね返りで病気になる難くしたい所です。（マルチ使用も可）後にU字金具を使う事があります。

②土壌を作る

（苗購入での紹介です）

植える場所に、石灰と堆肥、使用される方は化成肥料も一緒に、よく混ぜるように耕します。そのあと幅は70～80cm、高さ15cm程の低い畝を作りま

す。
かぼちゃに関しては、管理の仕方によって広い面積が必要になる為、種から苗の数を取る紹介は止めました。苗二

つからでもツルが拡大する恐れがある為です。

③植え付け

（五月中旬から六月中旬）

苗ポットから根を傷めないよう、そっと取り出し、畝にポットの土と同じくらいの穴を掘り、苗を入れて軽く土を被せ押えます。土と苗の根が密着するように、しっかり水やりをします。二つ以上の場合は、1mくらい間を開けて植え付けて下さい。先に述べた藁を根元の周りに土が殆んど隠れるように敷きつめます。マルチを使う方法もあります。



④追肥

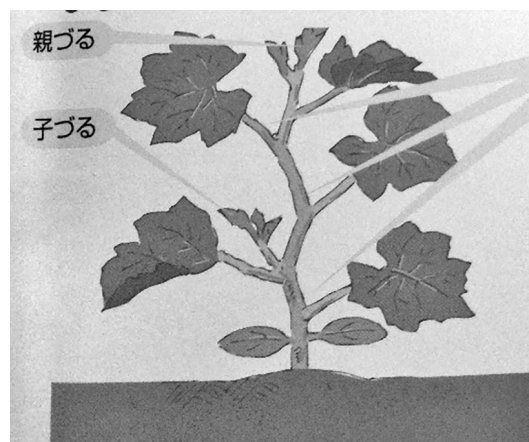
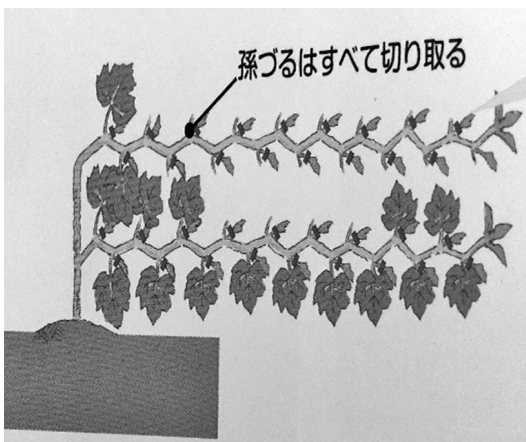
六月中旬、七月中旬、ツルの長さが50～60cmほどになれば、畝の横を少し鋤で溝を掘り、そこに化成肥料または有機肥料を撒き、土を寄せるように肥料に被せてやります。マルチを使用の場合はマルチを持ち上げて、同じ内容を行います。そして被せ直しをします。

⑤整枝・誘引

少し手間になりますが、六月中に一度、余分な枝を摘み取ってスッキリさせてやりまします。親づるの節や葉と、親づるの間から伸びる「子づる」、これを親づるに対して一本だけにします。更に丁寧にする場合、二本のつるを畝の片側に、畝に直角に誘引し、U字金具で固定します。

更にその後つるが伸びて、孫づるが沢山出てきますがこ

れもハサミ等で切り取ってやります。



⑥人口受粉

これが今まで紹介したことのない作業です。六月中旬から七月中旬ごろに、花が付き始めます。その花の根元が膨らんでいないのが雄花、膨らんでいるのが雌花。雄花を摘み取り、花びらを取り去って雄しべを剥き出しにします。雌花の雌しべの先に軽く付けて、花粉を付け、受粉完了です。



⑦追肥二度目

実がテニスボール程になれば、もう一度肥料を③と同じようにしてやり、つるは真っ

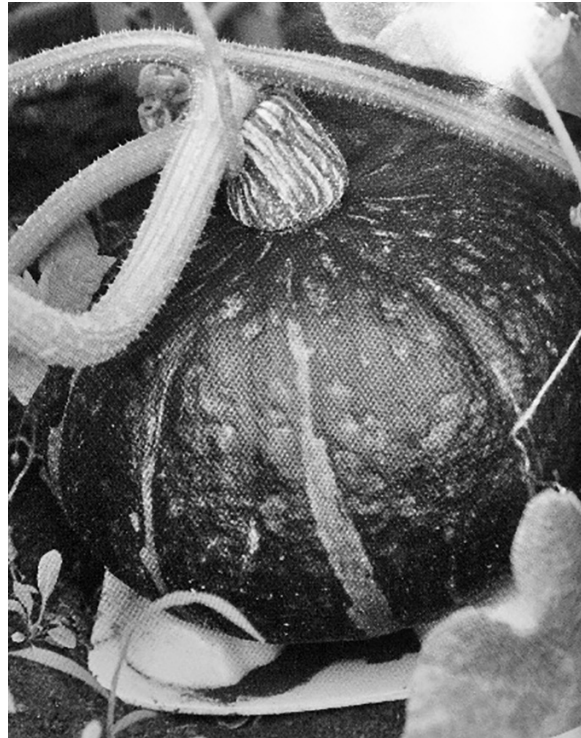
すぐに伸ばしてやります。

⑧トレイを敷く

実がさらにソフトボール大（直径約10cm）になれば、土壌病害防止のため、実の下にトレイを敷いてやります。トレイはスーパで食材・料理などで使って、洗った物で十分です。



⑨ 収穫



つると実のつなぎ目にあるヘタが、茶色になると獲り頃です。実の大きさはまちまちに成る場合もあり得ます。

皮が硬いので、カットする際は十分に気を付けて切つて下さい。料理には煮物は当然、薄切りにして炒め物や、軽く茹でたものをサラダに加えるのも良いです。寒くなると、茹でてミキサーで潰し、コンソメスープを加えて、トロっ

としたスープも格別です。

今回は、少し手間をかける部分を紹介しましたが、我が家では整枝・誘引は行ったことが有りません。ただし、管理不十分だとツルがそこら中に伸びてしまうので、お隣りに畑がある場合は特にお気を付け下さい。

◎次回は「ピーマン」です。
今回の協力…由良の方々

由良神社例祭 賑やかに行われる

10月12日(日) 秋晴れの下、伝統を引き継いだ立派な祭りが執り行われました。

気温が高くなる予想が当たって神社に集合の時から上着を着ていましたが、汗をかく状況でした。午前8時30分に宮本、浜野路、港の由良神社氏子の皆様が集合し、午前9時から神事が始まりました。

神主様がご神体を神輿に移し、「諸役行列」約20名、「神輿」担ぎ手約40名、「太鼓」子供たち約20名と子供会役員約10名そして「笛」約10名が並んで9時30分由良神社を御旅所の港地区照国稲荷まで、途中で数回止まり、子供たちを中心に若い衆が踊り太鼓を披露しました。御旅所では、神事と踊り太鼓の披露があり、神輿を中心とした行列は、12時00分に由良神社の鳥居をくぐり、神輿が境内で暴れました。ご

神体が神社に収められました。

午後2時20分から奉納太鼓が由良神社で行われました。太鼓の数は宮本3台、浜野路3台、港2台の計8台、打ち手も同じ数の8名、神社本殿前に並び「神楽踊り」「船頭踊り」を奉納いたしました。各地区の代表が打ち鳴らす太鼓は勇壮な動きと響きで人々を魅了しました。この2つの太鼓踊りにはそれぞれ太鼓に合わせた歌があり、踊り太鼓と一緒に集まった人々が歌いました。

由良神社に宮本地区の見事な芸屋台がおかれていました。芸屋台はそれぞれの地区にあり、浜野路では前日に青壮年会が主催して芸屋台が太鼓を打ちながら地区巡行しました。子供たちが大人と一緒に頑張って芸屋台を引っ張り、太鼓を打ちました。

この由良神社例祭りは、氏子総代様方を中心に自治会や子供会、その他の皆様方の協力により守られています。



由良神社例祭 奉納太鼓



浜野路公民館と宵宮



浜野路 芸屋台巡行

令和6年度 宮津市人権標語優秀作品 (中学校1年生～中学校3年生)

- 守りたい 自分らしさと あなたらしさ (1年生)
- ほんとにいいの 見て見ぬ振りする あなたの心 (2年生)
- 無意識に 放つ言葉にも 責任が (3年生)

編集後記

令和7年も残すところ一ヶ月と10日ほどになりました。公民館事業も文化祭が終了し一段落というところです。今後の事業は子ども料理教室(餅つき)12月14日(日)、卓球教室1月(3月、公民館だより第186号の発行を予定しています。

できれば人権学習(インターネットと人権、外国の方と人権など)を行いたいと思っています。人権のDVDを他の事業の時に見てもらうのもよいと思っています。

その他、行いたいことや疑問点などがあれば、いつでも言っていただければありがたいです。地区の皆様へのニーズに答えることが必要と感じています。公民館事業に参加される方の固定化が気になります。積極的な参加をよろしく願います。

館長